

# 日野市モビリティ評価結果

平成21年2月

日 野 市

## 目 次

1. 調査方法 .....	1
2. 評価結果 .....	3
2.1 評価対象施設までの所要時間 .....	3
2.2 区画内バス停の合計発便数 .....	10
2.3 評価メッシュ区画内の標高差 .....	11
2.4 評価メッシュ区画の道路整備率 .....	12
2.5 評価メッシュ区画の高齢者人口 .....	13
2.6 全項目平均得点 .....	14

## 1. 調査方法

### (1) 評価する地域の単位

日野市内に関連する4次メッシュ区画<sup>※</sup>（約500m四方・世界測地系）、合計121区画を評価単位とする。各区画の中心点から、評価対象施設までの所要時間等を評価（評価対象施設及び評価指標については次項以降を参照）する。



図 1.1 評価する地域単位（4次メッシュ区画）

※：4次メッシュ区画

メッシュ区画とは、地図上の地域を網の目状の小区画に区分した等形または等積の区画で表現したものであり、国勢調査のデータ整理にも活用されている。その大きさに応じて、1次メッシュ区画～4次メッシュ区画が提供されている。1次メッシュ区画～4次メッシュ区画の定義を下表に示す。

1次メッシュ区画 (約80km四方)	経度1度、緯度40分毎の経度緯度で作成された区画。国土地理院の1/200,000地勢図1面に相当する。
2次メッシュ区画 (約10km四方)	1次メッシュの縦横をそれぞれ8等分し作成された区画。
3次メッシュ区画 (約1km四方)	2次メッシュの縦横をそれぞれ10等分し作成された区画。
4次メッシュ区画 (約500m四方)	3次メッシュの縦横をそれぞれ2等分して作成された区画。

(2) 評価対象施設

各区画中心点からのモビリティの評価は、次の施設に対して実施する。

①救急医療施設（日野市民病院および花輪病院） ※東京都指定二次救急医療機関
②日野市役所
③行政施設（市役所及び支所）
④商業拠点（日野駅、豊田駅、高幡不動駅の三大拠点）
⑤主要集会施設
⑥文化施設
⑦交流センター
⑧図書館
⑨福祉センター
⑩温水プール

なお、②の日野市役所については単一施設を対象に評価を行うが、その他については複数施設が対象となっていることから、評価は各区画中心点から最寄りの施設を対象に実施する。例えば、落川周辺（市の東端）から図書館へのモビリティ評価を行う際は、最寄りの図書館である百草図書館（百草園駅前）が評価対象となる。

②以外について、評価対象施設は以下の通りである。

施設名	施設名
①救急医療施設	⑦交流センター
日野市民病院	多摩平交流センター
花輪病院	平山交流センター
③行政施設	平山台健康・市民支援センター
市役所	豊田駅北交流センター
豊田駅連絡所	南平駅西交流センター
七生支所	東町交流センター
④商業拠点	落川交流センター
豊田駅	新町交流センター
日野駅	万願寺交流センター
高幡不動駅	⑧図書館
⑤主要集会施設	中央図書館
生活・保健センター	多摩平図書館
東部会館	高幡図書館
多摩平の森ふれあい館	日野図書館
平山季重(すえしげ)ふれあい館	平山図書館
勤労・青年会館	百草図書館
市民活動支援センター	⑨福祉センター
⑥文化施設	中央福祉センター
市民会館	高幡福祉センター
七生公会堂	湯沢福祉センター
中央公民館	七生福祉センター
中央公民館高幡台分室、郷土資料館	⑩温水プール
	生活保健センター温水プール
	東部会館温水プール

### (3) 評価指標

評価指標は以下の通りである。

- 評価対象施設までの所要時間（公共交通利用時）
- 評価メッシュ区画内バス停の合計発便本数
- 評価メッシュ区画内の標高差（メッシュ内 100 地点標高の標準偏差）
- 評価メッシュ区画の道路整備率  
（区画内全道路延長に占める幅員 5.5m 未満道路延長の割合）
- 評価メッシュ区画の高齢者人口

### (4) 評価方法

各評価指標について市内各メッシュ中心から評価対象施設までの評価値（所要時間等）を算出し、それぞれを点数化する。

#### ★点数化の例（所要時間）

所要時間 10 分未満	: 1 点
所要時間 10 分以上 20 分未満	: 2 点
所要時間 20 分以上 30 分未満	: 3 点
所要時間 30 分以上	: 4 点

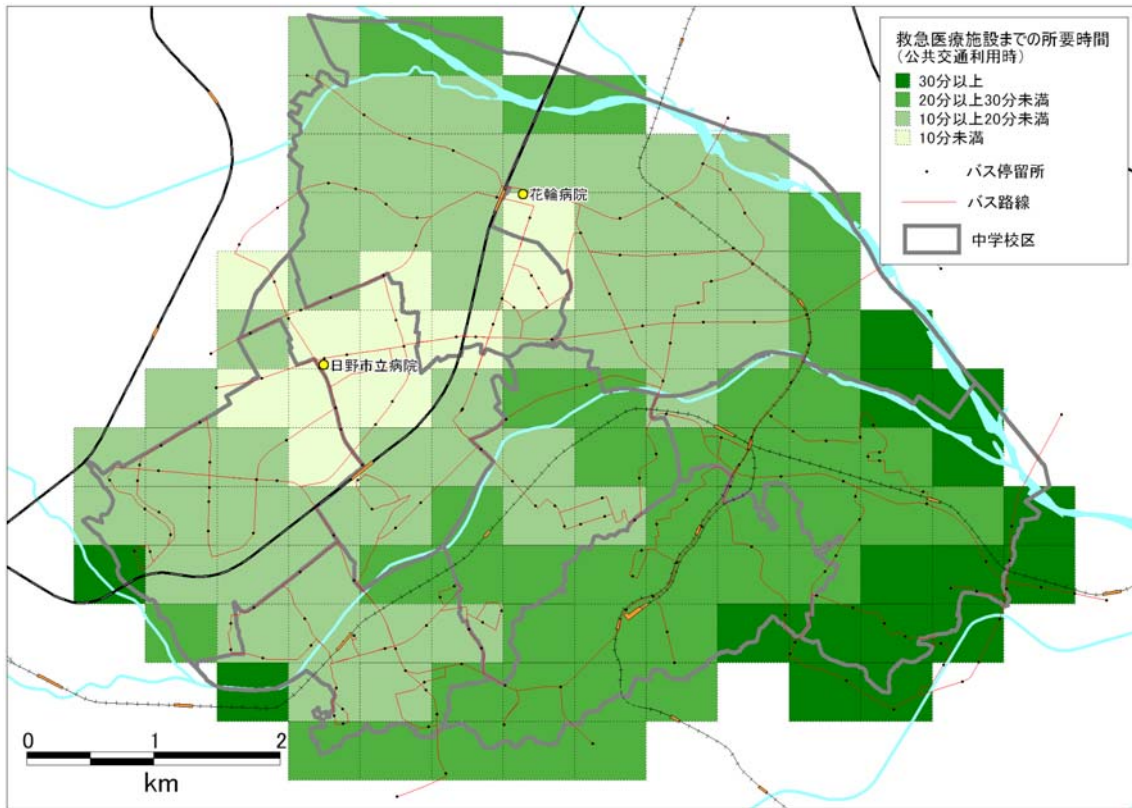
指標毎に算出された点数の総和により、評価対象メッシュのモビリティを評価する。

## 2. 評価結果

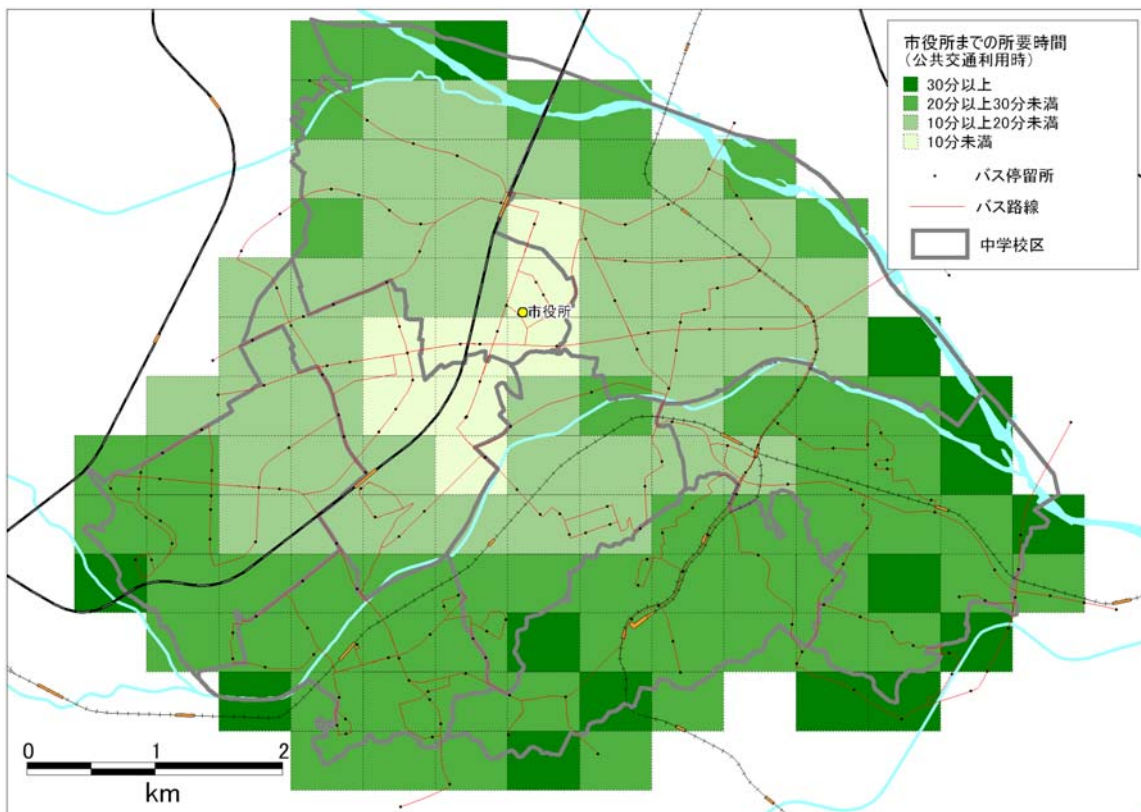
### 2.1 評価対象施設までの所要時間

評価対象施設までの所要時間を次ページ以降に示す。

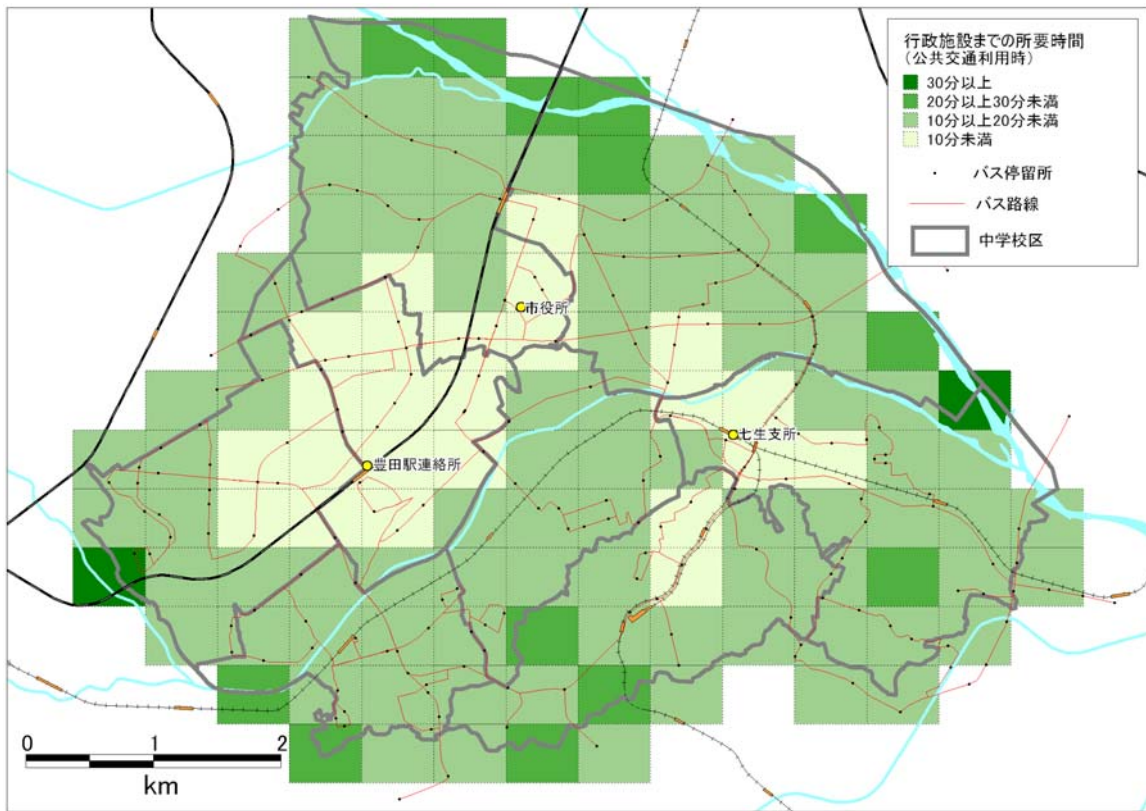
(1) 救急医療施設



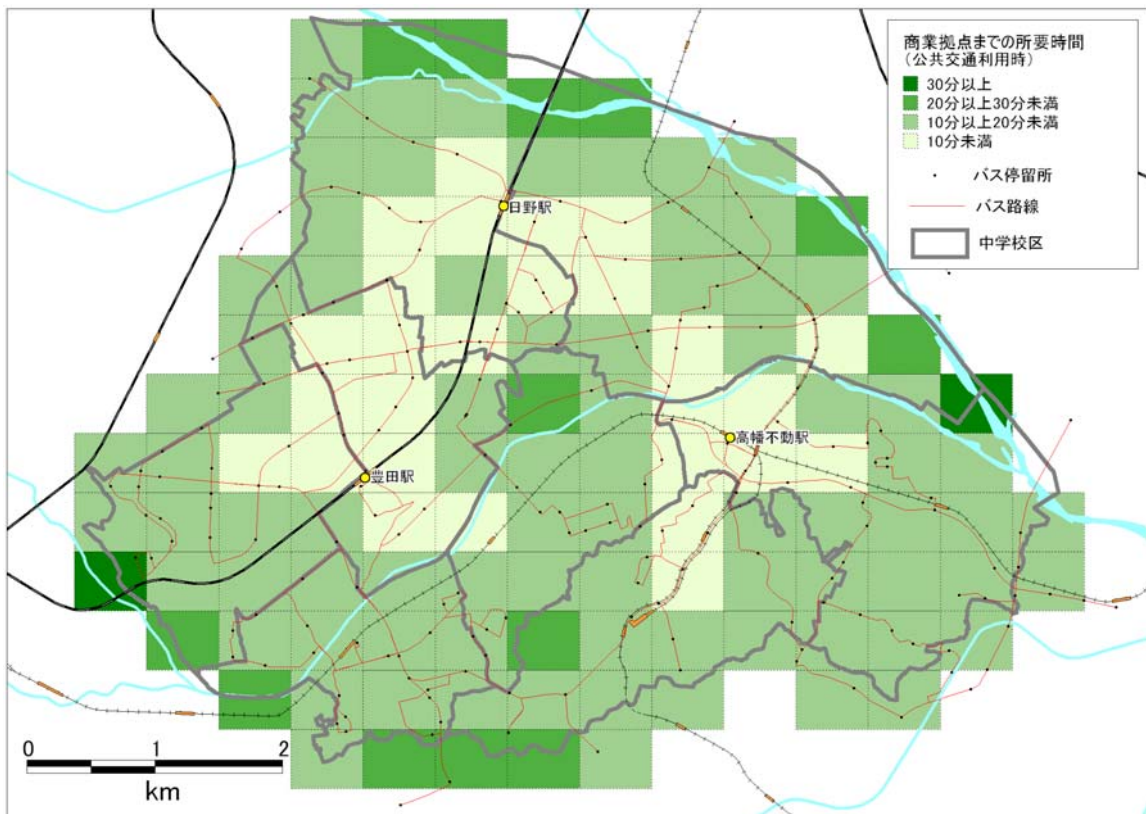
(2) 日野市役所



### (3) 行政施設

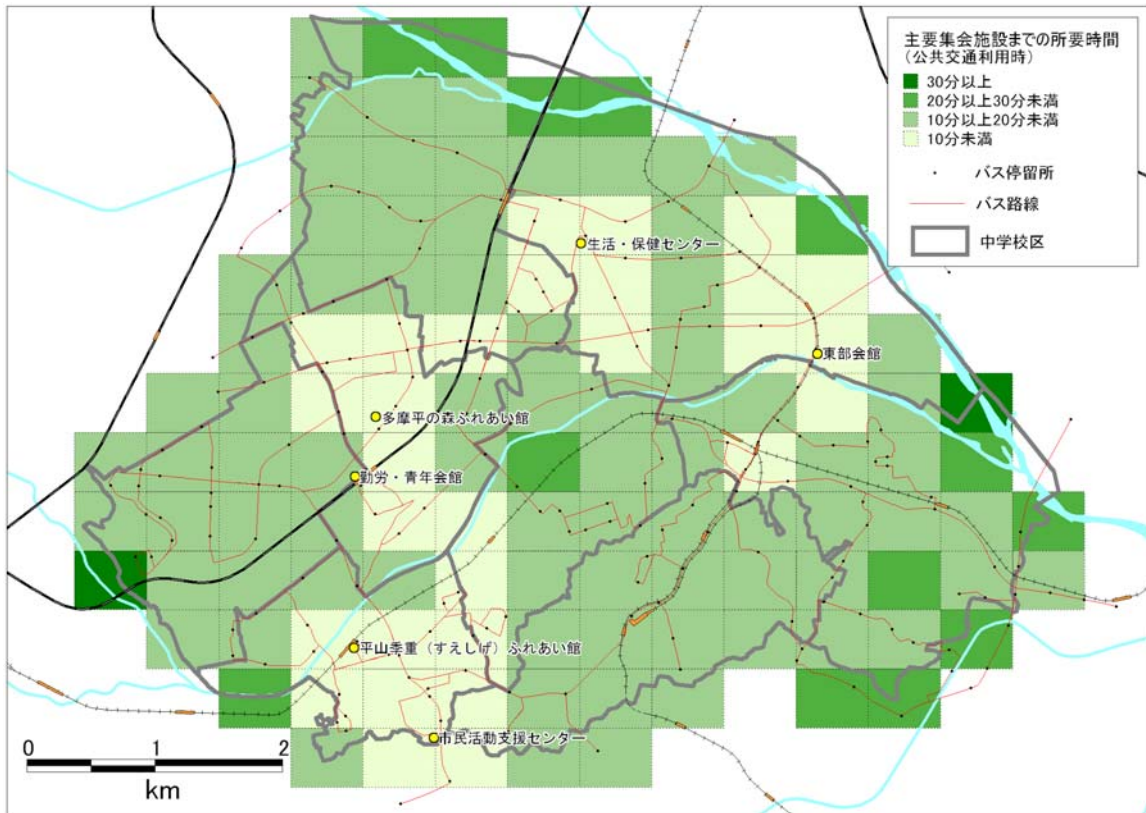


### (4) 商業拠点

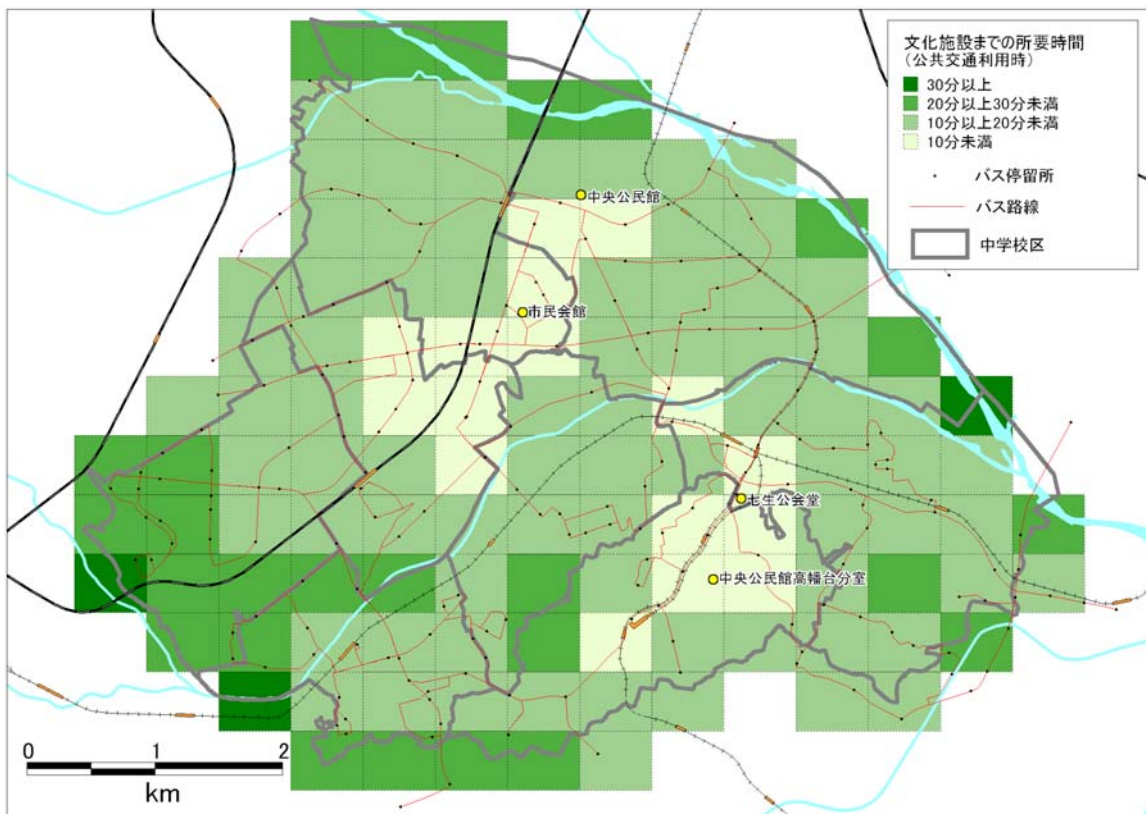




(5) 主要集会施設

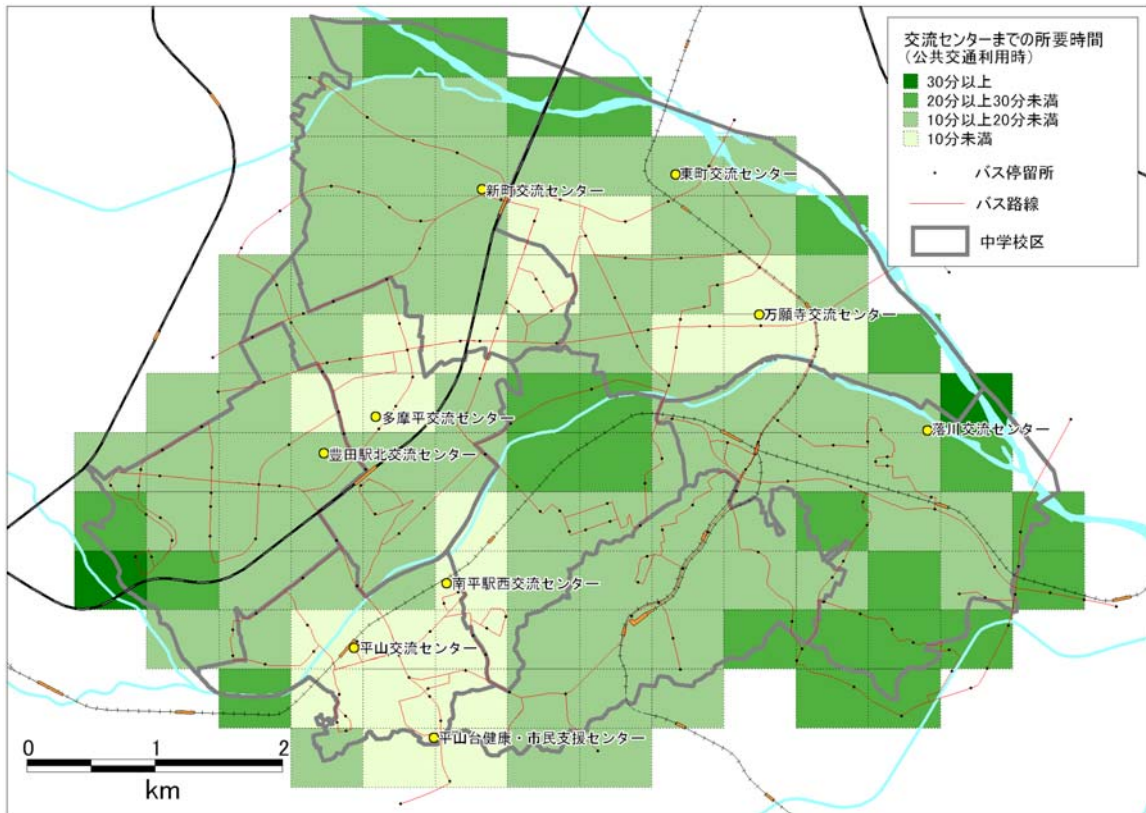


(6) 文化施設

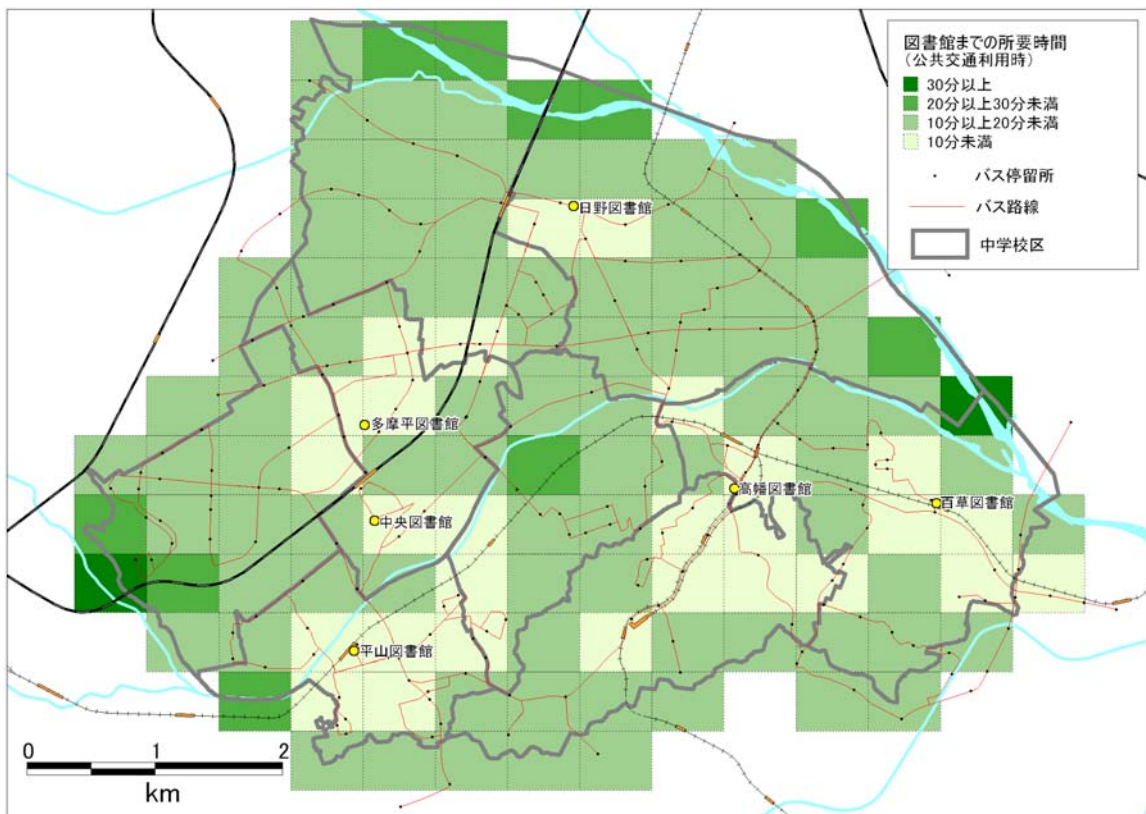




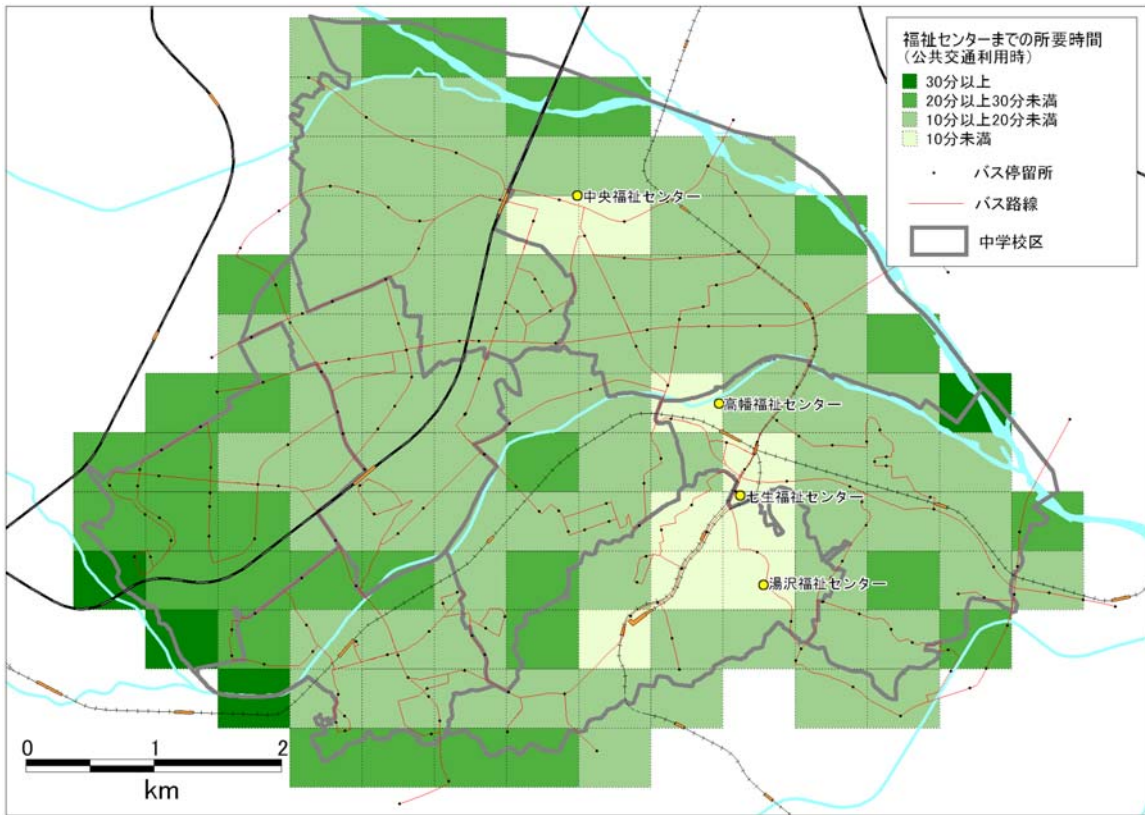
(7) 交流センター



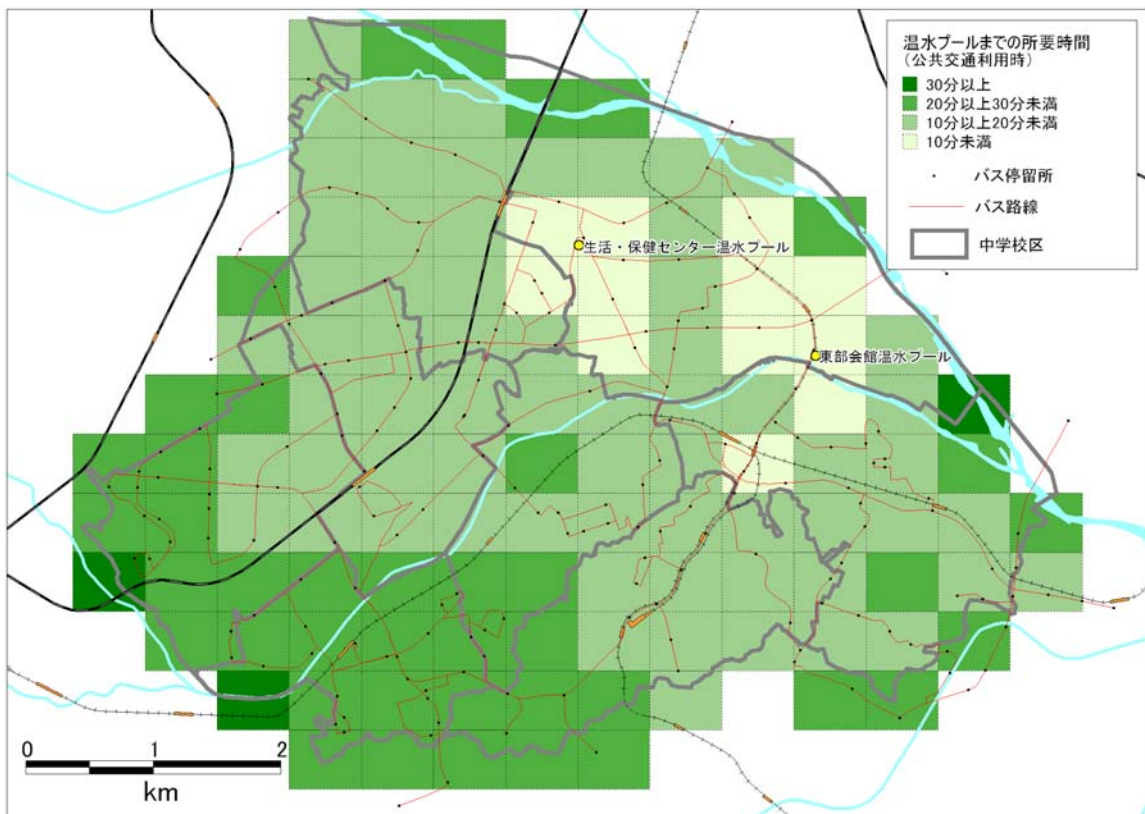
(8) 図書館



(9) 福祉センター



(10) 温水プール



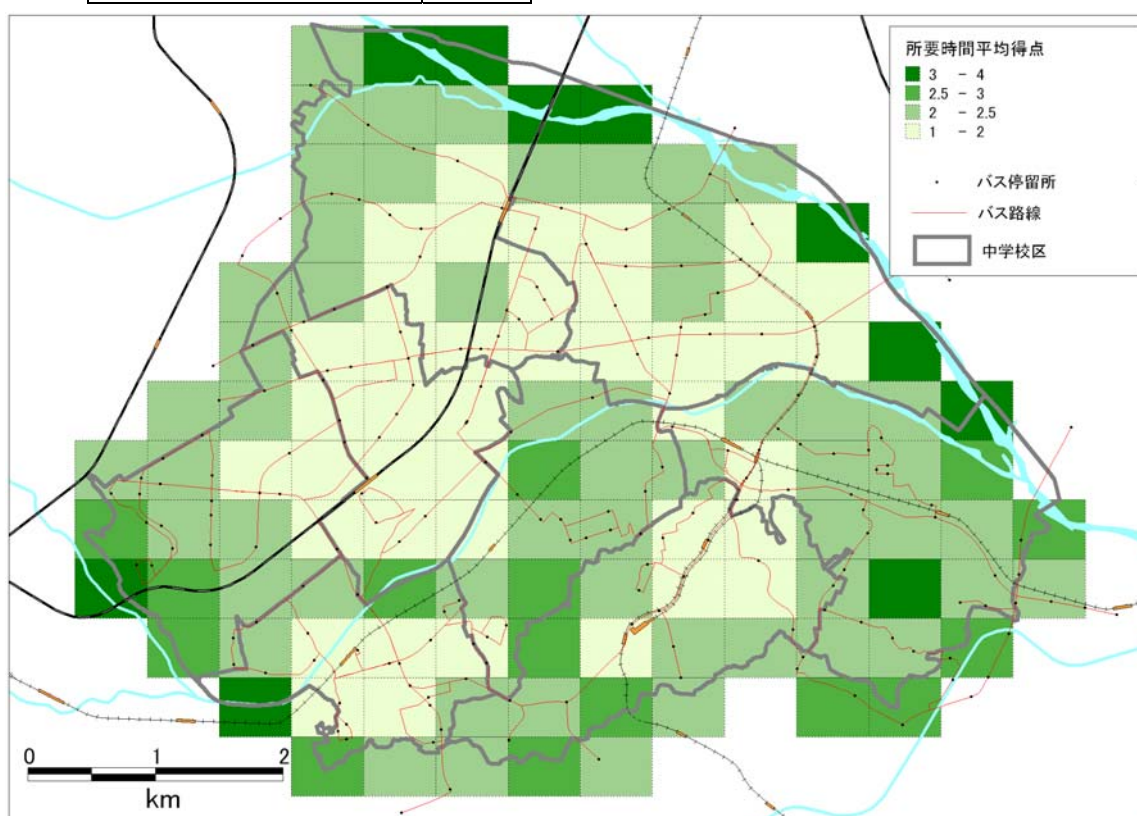


### (11) 所要時間の総合評価

①～⑩の結果を以下の区分で得点化し、評価メッシュ区画毎に平均点を算出した。得点の高い区画ほど、施設利用が不便な区画と評価される。

#### ■得点の区分

所要時間の区分	得点
30分以上	4点
20分以上 30分未満	3点
10分以上 20分未満	2点
10分未満	1点

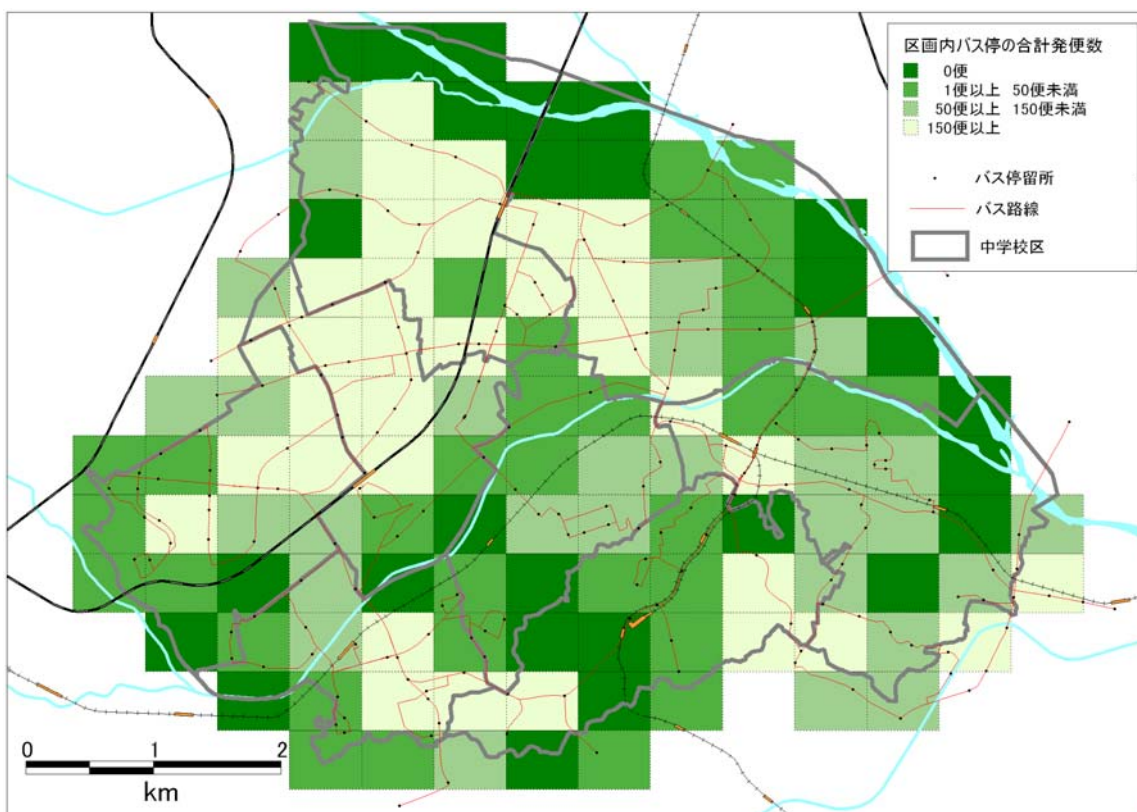


上図より、施設へのアクセスが特に不便な区画は、市の外周部に存在している。その他、市中央部（南平周辺）や市東部（百草駅周辺）に比較的得点の高い区画が存在している。

## 2.2 区画内バス停の合計発便数

前節の「評価対象施設までの所要時間」では、駅やバス停での待ち時間は考慮していない。これは、利用者は運行ダイヤに合わせ行動するのが基本であり、運行本数にかかわらず待ち時間は一定になると考えたためである。しかし、モビリティを評価するにあたっては、運行本数は無視できない指標である。ここでは、区画内バス停からの合計発便数を指標とし、各区画での「バスの利用しにくさ」を評価する。

なお、下図では全ての評価メッシュ区画を表示しているが、バス停が存在しない区画はそもそもバスを利用できない環境にあることから、得点化の際には評価対象から除外する。また駅から近い区画については、バスを利用する必要性が低く、バス本数が少ないことが利便性の低さに繋がらないことから、こちらも得点化の際には評価対象から除外する。



なお本指標における得点の区分は以下の通りである。

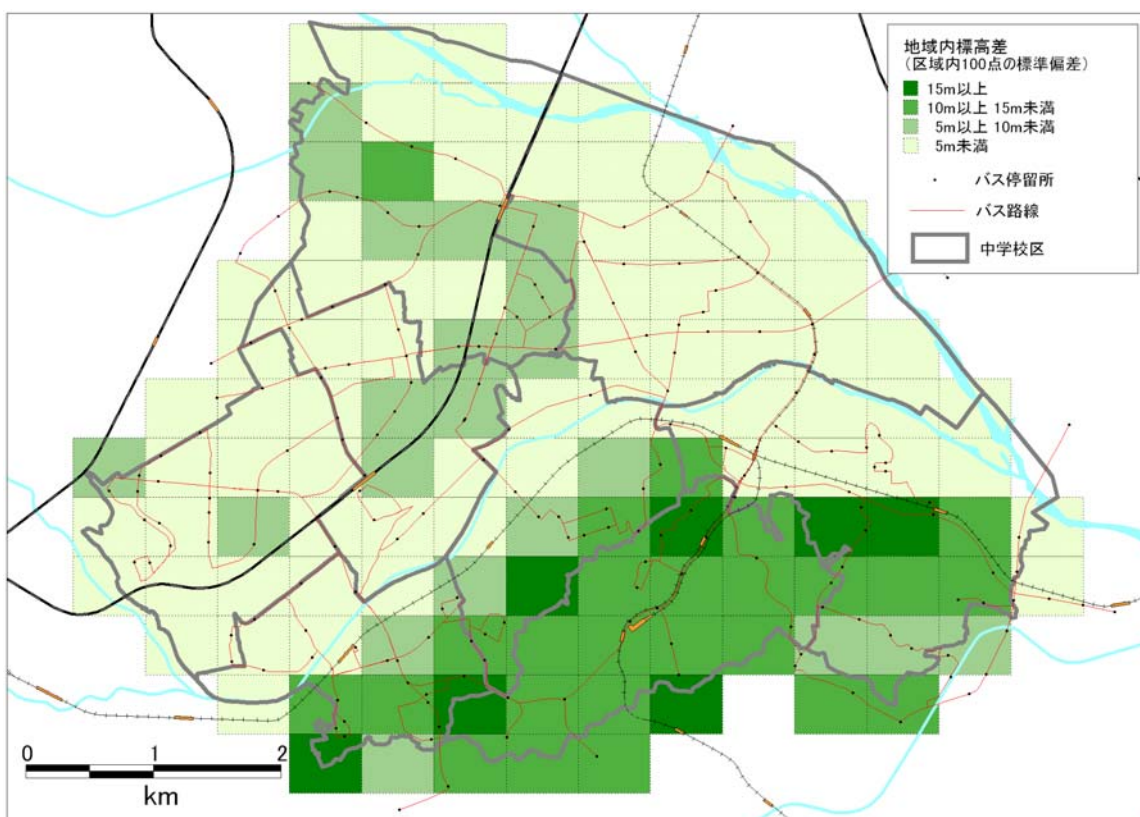
### ■得点の区分

区画内バス停の合計発便数の区分	得点
150 本以上	4 点
50 本以上 150 本未満	3 点
1 本以上 50 本未満	2 点
0 本	0 点

### 2.3 評価メッシュ区画内の標高差

前節までに、公共交通利用におけるモビリティの評価を行った。しかし、地域のモビリティは地域の地形（起伏の有無）や道路整備状況の影響を受けるため、これらの状況についての評価も必要である。

本節では各評価メッシュ区画内における地形起伏の大小を評価する。国土地理院が発行する「数値地図 50m メッシュ（標高）」を用いると、各評価メッシュ区画内に 100 地点の標高がプロットされる。100 点の標高データの標準偏差（データの分散度合い）を求め、地形起伏の評価指標とする。標準偏差の高い区画ほど起伏が激しく、自転車での移動が困難になる等、モビリティに対して課題を抱えている。



本指標における得点の区分は以下の通りである。

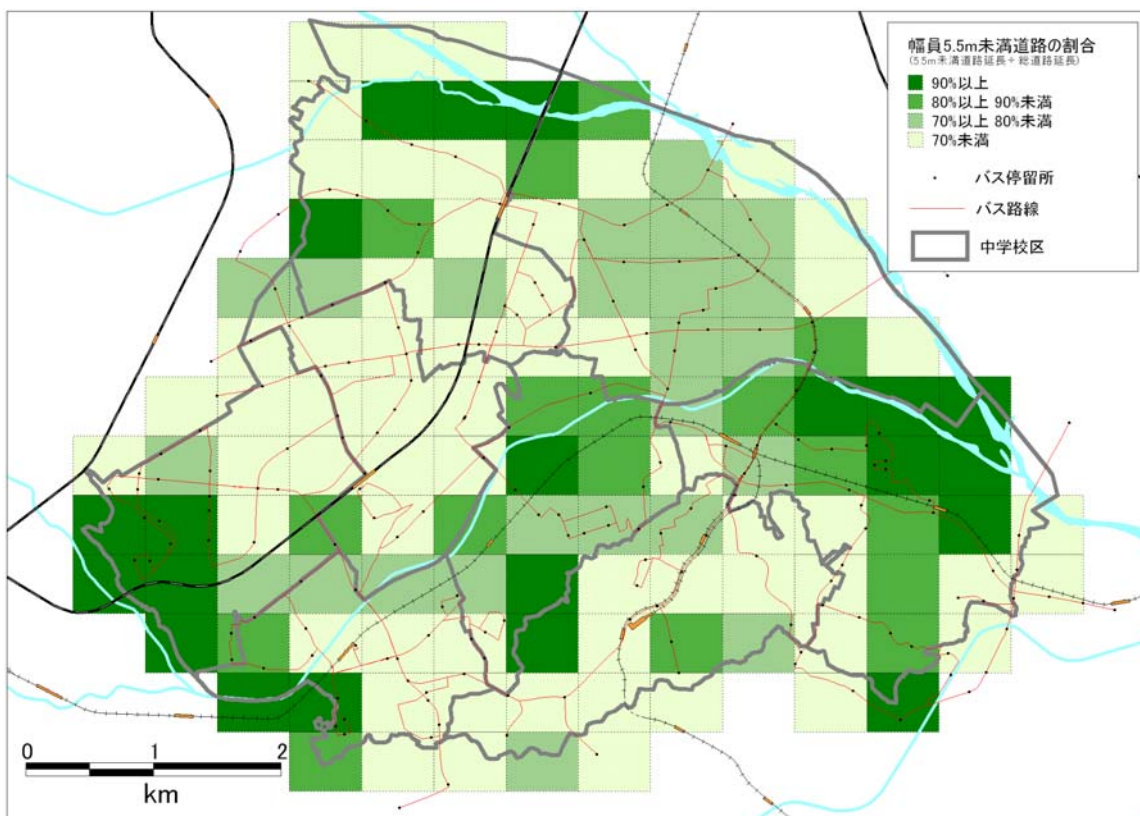
#### ■得点の区分

評価メッシュ区画内の標高差	得点
15m 以上	4 点
10m 以上 15m 未満	3 点
5m 以上 10m 未満	2 点
5m 未満	1 点



## 2.4 評価メッシュ区画の道路整備率

本節では各評価メッシュ区画内における道路整備率を評価する。DRM（デジタル道路地図）データを用い、区画内全道路延長に占める幅員 5.5m 未満道路延長の割合を算出し、道路整備率の評価指標とする。割合の高い区画ほど狭隘道路が多く、自動車での移動に制約がある等、モビリティに対して課題を抱えている。



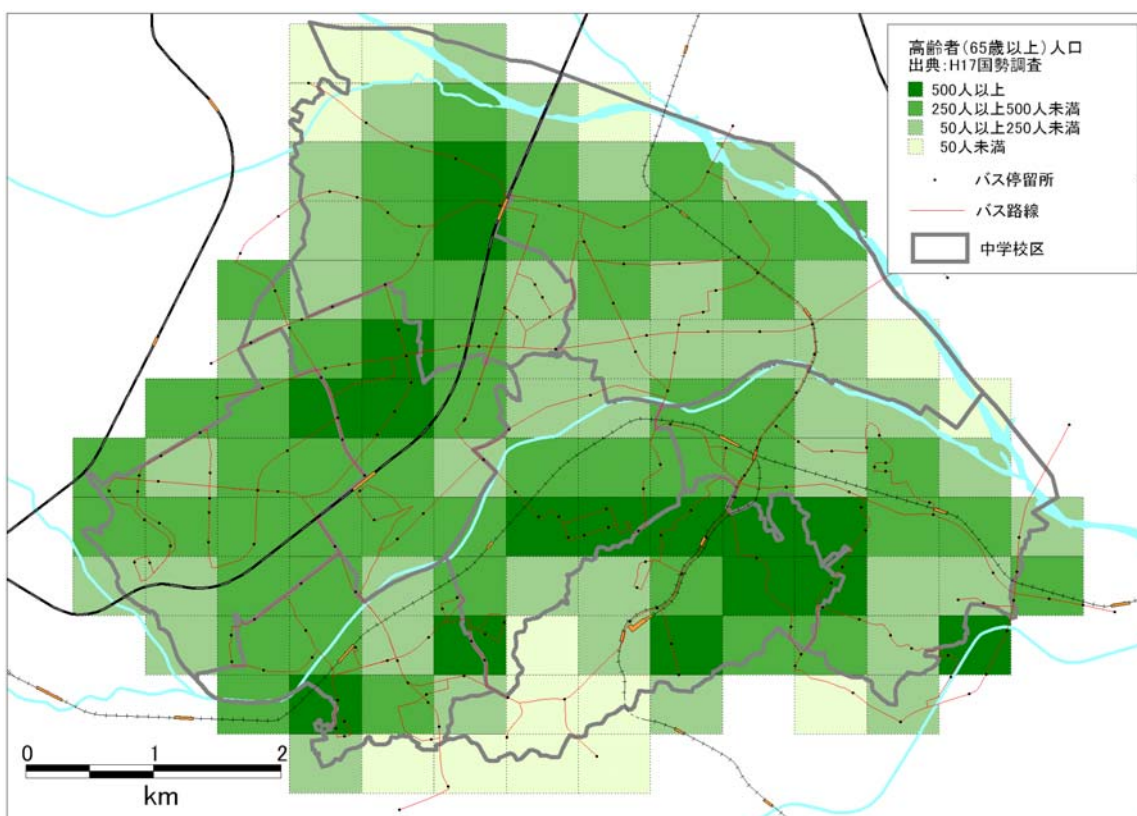
本指標における得点の区分は以下の通りである。

### ■得点の区分

評価メッシュ区画の道路整備率	得点
90%以上	4点
80%以上 90%未満	3点
70%以上 80%未満	2点
70%未満	1点

## 2.5 評価メッシュ区画の高齢者人口

本節では各評価メッシュ区画内における高齢者人口を評価する。平成 17 年国勢調査のメッシュデータを用い、高齢者人口を評価指標とする。高齢者には移動に制約を持つ人の割合が高いことから、高齢者人口の多い区画ほどモビリティ向上の必要性が高いと評価することができる。



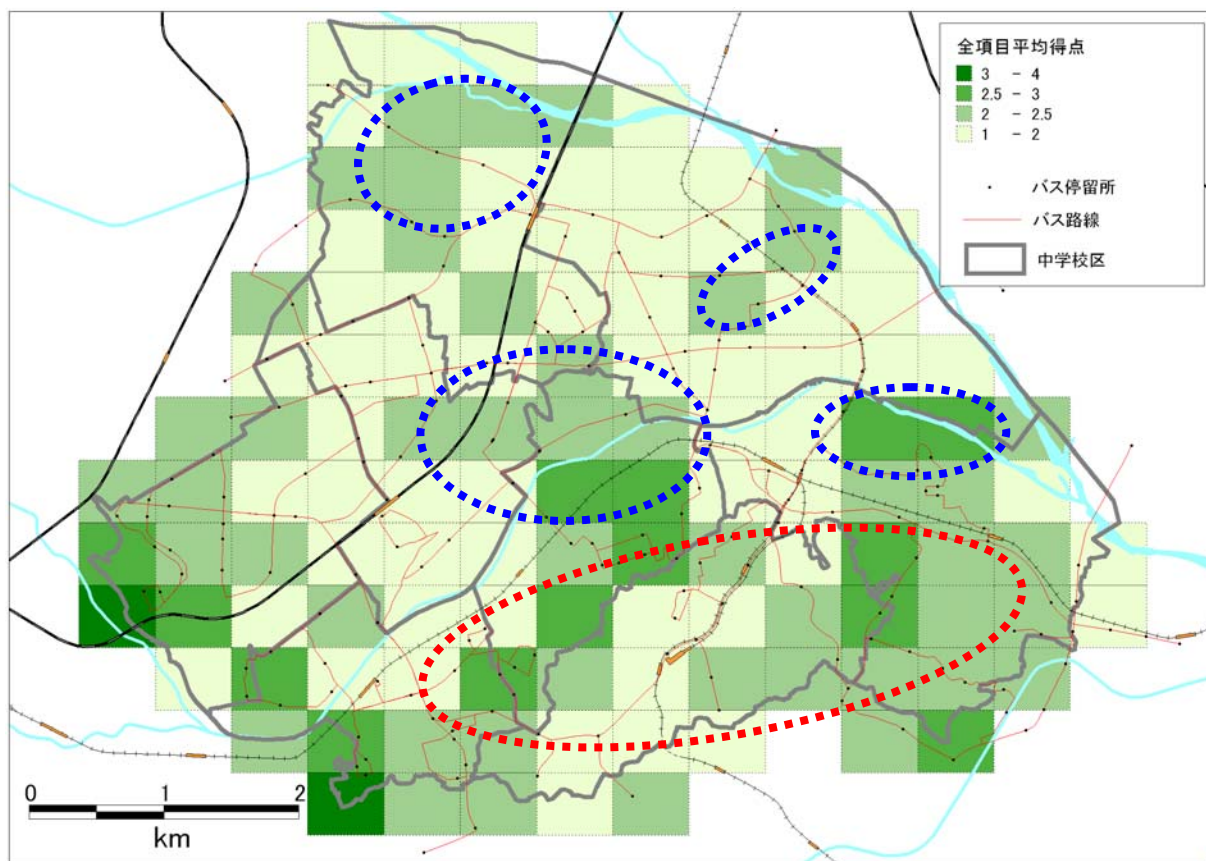
本指標における得点の区分は以下の通りである。

### ■得点の区分

評価メッシュ区画の高齢者人口	得点
500人以上	4点
250人以上 500人未満	3点
50人以上 250人未満	2点
50人未満	1点

## 2.6 全項目平均得点

前述の「目的地までの所要時間」から「評価メッシュ区画の高齢者人口」の結果を得点化し、評価メッシュ区画毎に平均点を算出した。得点の高い区画ほど、モビリティに課題がある区画と評価される。



上図より、得点の高い区画は市外周部に多いことがわかる。市外周部以外では、平地部の交通空白地域（上図青破線部）および市南東部の丘陵地（上図赤破線部）にて比較的得点が高い。